

子どもの本だな 31

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

おやすみなさいフランス

ラッセル・ホーバン 文 ガース・ウィリアムズ 絵
松岡享子 訳 (福音館書店)

アナグマの女の子、フランスの寝る7時になりました。お父さんにおんぶされベッドに行きますが、眠れません。そこで自分で作った「あいうえお」の歌を歌い始めました。「あ」から順に歌っていき「と」と「な」で止まってしまう。「なきむしのとら」なんているかしら、と考えたのです。すると部屋の隅に虎がいるような気がして両親に知らせに行くと、何もしない虎なら大丈夫と言われベッドにもどりました。この後も大男や天井のひび、揺れるカーテンを知らせに行きます。

眠れないわけを次々訴えるフランスが柔らかい線で表情豊かに描かれており、辛坊強く付き合う両親からユーモラスな暖かみが伝わります。シリーズの中でフランスは成長し、聞き手の子どもは強い共感を味わいます。読んでもらえば4歳位から楽しめるでしょう。(西村)

とぶ船

ヒルダ・ルイス 作 石井 桃子 訳 (岩波書店)

ピーターは、古い店のウィンドウに小さな船を見つけました。欲しいと思い描いていた船にぴったりです。「今もっているお金全部とそれからもう少し」払って不思議な老人から船を買い、大事にポケットに入れました。帰り道、海沿いの道を歩いていた時、突然潮が満ちておぼれそうになったピーターが「うちへ帰りたんだ」と叫ぶと、船はぐんぐん大きくなり、ピーターを乗せて空を飛び、うちへ帰りつきました。この魔法の船で、ピーターたち四人きょうだいは、エジプトのバザールや北欧神話の世界、ロビンフッドの時代のイギリスを訪れます。紀元前のエジプトでは、裏切者によって危機に陥った王を助け、奇跡の物語としてピラミッドの壁に刻まれることになりました。

「とぶ船」は、時間と空間を超え、四人の願いを叶えます。「歴史が目の前で生きかえってくるなんて、おかしな気持ちができるもんだね」という言葉どおり、世界中の人びとや昔の人びとへの興味・共感を起こさせてくれる物語です。十歳くらいから。(池田)

5月	6月	5・6月の移動図書館(いずれも木曜日です)				
12日	9日	塚森 地域内 10:30~10:50	沖代 地域内 11:00~11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
19日	16日	岩見構下 公民館 10:30~10:50	岩見構上 公会堂 11:00~11:20	原池団地 公民館 15:00~15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
26日	23日	広坂 公民館 10:30~10:50	上太田 公民館 11:00~11:20		吉福 公民館 15:30~15:50	太子 ニュータウン 公民館 16:00~16:30

お知らせ

絵本の交換会

家でもう読まなくなった絵本はありませんか?図書館に持って来てくだされば、他の絵本と交換できます。

6月11日(土)

10時30分~15時30分

場所: 図書館・読書会室

『ひとりの記憶 海の向こうの戦争と、生き抜いた人たち』 橋口 譲二著

文藝春秋 327頁 2016年1月刊 1,700円 (請求記号) 210.75

本書は、写真家でもある著者が、先の戦争の前後に国外に渡り、戦後もその地に留まり続けた人たちを訪ね、聞き取った言葉の記録である。

薬剤師として薬局を経営していた笠原晋さんは、33歳の時、徴用を受け二人の子供を残しスマトラに渡った。病理研究所で血清やワクチンを作る傍ら、ジャングルの無医村を巡回し診察と治療を行っていたが、戦況悪化とともに薬剤が不足し始めると、インドネシア伝承の薬草をジャングルや無人島で採集し栽培するようになった。やがて終戦。朝鮮人従軍慰安婦の朝鮮への移送の付添いを命じられるが、船に乗れば日本人は殺されるだろうと、逃亡を決意。現地の人に服やお金を渡し、自分は薬艸、医療器具、地図、マツチを持ってゴム園に姿を消した。直後に、インドネシア人民軍に捕えられた。竹槍で武装した兵隊と一緒に村々で治療にあたるうち、インドネシア独立を手伝いたいと、医療従事者を育成、天然痘の撲滅も果たすことができた。

立派な棟梁になりたいと思っていた井上助良さんは年季奉公が開ける直前の21歳から、満州事変、支那事変、大東亜戦争と三度召集された。インドネシアで終戦を迎えたが、妻子のもとには戻らず、独立戦争に参加。新たな家庭を築き、商売や通訳をしたが、今は家族三人で他人の家の一部屋に住まわせてもらっているという。

日本統治時代の台湾、霧社で育った女性は、戦後子どもたちを食べさせるため、山の民にまじって裸足で野良仕事をしたりという。韓国人と結婚した女性はベトナム帰還兵保護のボランティアをしていた。中国で終戦を迎えた15歳の看護学生は、毛沢東率いる八路軍に入り中国内を治療してまわっているときに知り合ったユダヤ系ドイツ人の医者との結婚をした。サイパンのサトウキビ農家の男性は応召し島を離れている間に家族が全滅、今は観光バスの運転手とガイドをしている。

夢や希望を抱く若者であった彼らは、どんな思いで戦争をくぐり抜け、日本に残してきたものへの思いを胸に押しとどめその地に留まったのだろうか。十人の人生はずっしりと重い。

(片木)

5月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

6月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

<日曜日の絵本の時間>

5月15日
時間：11時から
場所：おはなしの部屋
対象：2～3歳
保護者の方も入れます

カレンダーの×印は休館日です。
開館は10時～18時。
金曜日は20時まで開館しています。

地下水

近頃、じっくり本が読めない。毎晩、布団に入って本を開けるのだが、2、3ページ読むと瞼が重くなる。

一日のうちに、歯医者、眼医者に行くことになった。夜に読めない分を休日に取り戻そうと思っていたが、半日が医者の待ち時間でつぶれた。待ち時間にも本が読めればいいのだが、周りに人がいると落ち着かず、いつもぼーっとしている。医者から帰ると、疲れが出て昼寝をして…と本がどんどん後回しになる。

オルハン・パムクの新刊『僕の違和感』を借りてしまった。上・下2冊ある。まだ上巻も読み終わっていないのに、『へろへろ 雑誌『ヨレヨレ』と「宅老所よりあい」の人々』も借りてしまった。返却期限を確認しながら、毎晩少しずつ読んでいく。

利用者Sさんから「また『これ、どうですか』お願い。」と要望が出た。時々、Sさんが好きかなと思う本を「これ、どうですか。」と押し付けるのだが、偏りがちな本選びに幅が出るので、Sさんは喜んでくださる。いまの読書の速度では、かなりプレッシャーを感じる。返却時に「おもしろかった」と感想がもれた本を「じゃあ読んでみよう」と立場が逆転した状況をどうにかせねば。

(竹内)

